

1 文(文章)で解答する設問の答案については、次のA項の加点要素の合計から次のB項・C項の減点要素の合計を引いた得点をその設問の得点とします。ただし最低点は0点としマイナスの得点はつけません。

A

a 以下の採点基準では、模範解答をいくつかの要素に分割し加点要素とします。答案中にその加点要素に相当する部分があれば、その加点要素に配点された得点を与えます。

b ある加点要素は、その加点要素に配点された得点か0点で採点することを原則とします。たとえば5点配点された加点要素であれば5点か0点で採点することを原則とします。

ただし、その加点要素中の部分点を認める場合もあります。その場合それぞれの採点基準の中に明記されています。

c ある要素に加点するか否かが、他の要素と無関係に決まる場合と、他の要素との関係で決まる場合があります。前者の場合は、その要素を単独採点(独立採点)すると言いその旨必ず明記されています。後者の場合は、他の要素との関係について以下の採点基準で具体的に指示されています。

d **解答通り**という条件がある場合はいかなる部分点も認めません。

B

a 答案中に大きな誤読と判定される内容(語句)などがある場合は、その内容(語句)を減点要素として示されている場合もあります。

b 加点要素でも減点要素でもない部分もありえます。その部分は加点も減点もしません。

C

次に該当するものは、答案の形式上の不備として、一箇所につき1点の減点要素とします。

a 誤字。漢字などの文字の明らかな誤りは誤字とします。

b 脱字。

c 文末の句点の脱落。

\*字数指定のない場合、句点の脱落は誤字とし1点の減点とします。

d その他不適切と判断せざるをえない箇所。

e 不適切な文末処理。設問の問い方に対応していない形で答案の文末を結んでいない場合は、適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備による減点要素とします。

たとえば「:とはどういうことか?」という問いに体言で結んでいないものなどは適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備とします。

また、理由が問われているのに、「から」「ので」などで結んでいないものなども適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備と見ます。

\*ただし、「ことである」などの表現も「こと」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また、「からである。」などの表現も「から」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。

また文末の表現を問わない場合もありますが、その場合はその都度明記されています。

2 日本語の表現として不適切なものは程度に応じて減点します。

3 次の各項に該当するものは、部分点の要素があっても、その設問の得点を0点とします。

a 答案が解答欄の欄外にはみ出しているもの。

b 一行の解答欄に二行以上書いた場合もその設問の得点を0点とします。

c 字数指定のある設問で、字数をオーバーしたもの。

d 答案の文章が最後まで完結していないもの。

4 **古文あるいは漢文の訳を記述する設問**の場合も以上に準じますが、文末の句点や文末の処理あるいは答案の完結にこだわらなくともよい場合はその都度明記されています。

問一 8点 (各2点)      1 || 不可欠      2 || 言及      3 || 担      4 || 弊害

\* 模範解答以外×

問二 6点 (各3点)      d・f

\* 順不同 可

問三 10点

A 5点

(模範解答例) 人間は発達が遅く、「大人」になるまでに長い時間が必要になるが、

B 2点

その間に知性、認識能力や創造性、

B 2点

コミュニケーションの多様性や複雑性・深さ、

B 1点

社会性が発達するから。

各加点要素の加点の条件

【A・Bに関して部分採点を行う (A・Bそれぞれ単独に採点を行って構わない)】

A 発達が遅く、「大人」になるまでに長い時間が必要になる (|| ケア期間が長い・脆弱な期間が長い)。

B 知性、認識能力や創造性、コミュニケーションの多様性や複雑性・深さ、社会性が発達する

\* 「知性、認識能力や創造性、コミュニケーションの多様性や複雑性・深さ、社会性」について、完答ではなく、3か所に分けて点を与える。

問四 8点 (各4点)      X || 口      Y || イ

問五 5点      ホ

問六 8点

A ○3点

(模範解答例) ケアという営みを一対一関係の中に閉じ込めてしまうのではなく、

B ○5点

外部のコミュニティや社会の中で人々が自立した生活をしていくことを目指すこと。

各加点要素の加点の条件

【A・Bに関して部分採点を行う(A・Bそれぞれ単独に採点を行って構わない)】

A ケアという営みを一対一関係の中に閉じ込めてしまうのではなく(Ⅱ「ケアする者―ケアされる者」という二者関係ですませずに)

B 1 外部のコミュニティや社会の中で(2点)

B 2 人々が自立した生活をしていくことを(2点)……「中間的集団」に焦点をあてているものは×0点。

B 3 目指す(1点)

問七 5点 二

□ 現代文 小説 (50点)

問一 各3点×3＝9点

a＝二

b＝八

c＝ロ

問二 4点

ハ

問三 9点

【模範解答例】

不意に現れた見知らぬ娘の存在と、

(A 2点)

その娘の手にしていた杯の奇妙さに

(B 2点)

驚き、

(C 2点)

言葉を失っている様子。

(D 3点)

【採点のポイント】

※A、BはCあるいはDと結びついている場合のみ点数を与える。「AまたはB」のみ、あるいは「AかつB」のみの答案には(設問で問われている「七人の娘たちの様子」ではないので)点数を与えない。

※A、Bは両方書かれていなくても部分点を与える。(A+C+D＝7点、A+C＝4点、A+D＝5点。B+C+D＝7点、B+C＝4点。B+D＝5点)

A 「不意に現れた見知らぬ娘の存在と、」(2点)

※Cの理由①である。

△ 「平和の破壊者」という比喻表現をそのまま用いている場合、1点。

△ 「不意に現れた」というニュアンス(平和な状況を破るニュアンス)が入っていない場合、1点。

○ 「第八の娘の突然の登場と、」などでも可。

○ 「突然現れた娘の容姿と」も可。

B 「その娘の手にしていた杯の奇妙さに」(2点)

※Cの理由②である

○ 「その琥珀いろの手に持っている、黒ずんだ、小さい杯を見て」という本文の表現をそのまま用いた解答も可とする(ただし、その場合、字数がかさむため、他の要素が入らなくなる)。

△ 「杯」についての説明がない解答は、1点。

「杯」にかかる修飾語として「その娘の手にしていた」というニュアンスが無い場合、1点。

C 「驚き、」(2点)

※Dの理由である。

○ 「くが思い掛けない事だったので」といった表現でも可。

D 「言葉を失っている様子。」(3点)

※設問で要求されていることに対する直接的な答えの部分である。賑やかなおしゃべりの一時的な中断、つまり人間の声(音)が一時的に止んでいる様子を答える。

○ 「言葉(詞)を失っている。」のように、文末が「様子。」で終わっていなくても、内容的に娘たちの様子を表している場合、3点。

- 「言葉が出てこない様子。」や「絶句している様子。」「何も言えなくなっている様子。」も可。
- △ 「言葉(詞)がない様子。」は、前の部分とのつながりがおかしくなければ可。おかしければ1点。
- △ 「呆然としている様子。」は直接的には「音が無い」という意味にならないので2点。
- × 「緊張している様子。」や「第八の娘が何を言うのか待っている様子。」は不可。
- × 「ただ蝉の声に耳を澄ませている様子。」も不可。

#### 問四 6点

二

#### 問五 6点

【模範解答例】 自分は自分の杯で (A 3点)

水を飲みたいという意志。 (B 3点)

【採点のポイント】

※本文の「わたくしの杯は大きくはございません。それでもわたくしはわたくしの杯で戴きます」という内容(38字)を字数内(20字以内)でまとめられていればよい。

- A 「自分は自分の杯で」(3点)
- 「自分の杯で」も可。
- 「自分の小さい杯で」も可。

B 「水を飲みたいという意志。」(3点)

○ 「水を飲むために自分の杯」を使いたいという意志。」も可。また、「水を飲む」という意味になっていれば、たとえば「喉を潤す」などの表現も可。

○ 「〜したいという意志。」ではなくても、「水を飲むという意志」や「〜を使うという意志。」も可。たとえば「他人ではなく自分の杯を使うという意志。」は6点。

○ 「水を飲む意志」は可。

△ 「水を飲みたい意志」は日本語がおかしいので1点。

△ 文末が「意志。」で終わっていない場合、2点。(たとえば「自分の杯で泉の水を飲みたいというもの。」は5点。

#### 問六 6点

ロ

#### 問七 10点

【模範解答例】 人に何と言われようとも、 (A 3点)

人真似ではない、自分に与えられた自分の道を (B 3点)

毅然として進んでいくこと (C 4点)

【別解】 多数派の価値観に迎合することなく、 (A 3点)

自分の価値観に (B 3点)

誇りを持ち、それを大切にすること (C 4点)

【構造点】

× 「〜が大切だ」という表現につながらない解答の場合、点数は0点。

## 【採点のポイント】

※「わたくしの杯は大きくはございません。それでもわたくしはわたくしの杯で戴きます」という本文中の表現を、具体的なコンテキストから切り離れた抽象的、一般的な表現に言い換える問題である。

※「自分に与えられたものが他人や世間の評価基準からすれば見劣りするものであったとしても(A)、自分はこの自分に与えられたものに(B)誇りをもって生きていくこと(C)」といった内容になっていればよい。

※本文中の言葉を用いて答えるタイプの問題ではないので、表現上の許容範囲は広くとる。

A 「人に何と言われようとも、」(3点)

※「他人や世間の価値観を気にせずに」というニュアンスが出ていればよい。

×「たとえ小さな杯だとしても」といった具体的な表現は不可。

B 「人真似ではない、自分に与えられた自分の道を」(3点)

※「自分に与えられたもの」を抽象的に表現できていればよい。

○「自分の性質」「自分の能力」「自分の生き方」「自分の意志」などは可。

×具体的な(物質的な)「持ち物」は不可。たとえば「杯」、「所有物」などは不可。

C 「毅然として進んでいくこと」(4点)

※「自信をもって、」「誇りを持ち」「堂々と」「(自分の意志を)貫く」「邁進」といったニュアンスが必要である。

×「くが大切だ」という表現につながる形で答えなければならないので、句点を打っている解答は1点減点。

第三問

問一 (1) もののけ (2) え (3) ゐ (4) そぢと (各②点)

問二 ① ア役に立た ィないだろう (④点)

ア—②点 「役に立つ、甲斐・効き目・効果・御利益・意味がある」で②点  
イ—②点 打消推量「くないだろう・くまい」で②点。 打消「ない」は×

② 持っていてもア仕方がない (④点)

ア—④点 (持っ<sup>て</sup>いても)「仕方ない・意味がない・無駄だ」  
(持っ<sup>て</sup>いる)「意味がない・理由がない」で④点。  
「つまらない・方法がない」は文脈に不適切×

③ アそつととィ見ると (④点)

ア—②点。「そつと・静かに」  
イ—②点。偶然条件「見ると・見たところ」 ×見れば・見るならば

問三 ① 打消の助動詞「ず」の已然形

② 断定の助動詞「なり」の連用形

③ 存続(完了)の助動詞「り」の連体形 意味・終止形・活用形セットで完答 (各②点)

問四 ニ (⑥点)

問五 アいつも通る道に ィ弓矢や武器を持つたウ盗人たちがいること (⑥点)

ア—②点。普段通る道・いつもの道 など狐に案内されなければ通つたであろう道であることがわかれば可。「男が通ろうとした道」も可。

イ—②点。危害を加えそうな装備であること。

ウ—②点。盗人がいること。

問六 ア男の、ィ狐に白い玉を返すことにした自分の判断は賢明だったと自讃する気持ち。 (⑥点)

ア—②点。男の △「自分の」↑特定できない。①点

イ—②点。「白<sup>い</sup>玉を狐に返した<sup>こと</sup>」「白<sup>い</sup>玉を狐に返す<sup>こと</sup>にした<sup>こと</sup>」「またはその「判断」

ウ—②点。「良かったと思う・賢明だと思う・うまくいったと思う」など

問七 ホ (⑥点)

四(漢文)採点基準(合計≒50点)

- 問一 ①なんとなければすなわち (2点)  
②ゆえに (2点)  
③よろこび(よろこびて) (2点)  
④より(よりて) (2点)

※カタカナ、歴史的仮名遣い(すなはち、ゆるぎ)は×。

※「よろこぶ」は減点1点。

※「よって」は減点1点。

問二 甲 帝王(3点)

乙 覇者(3点)

※右記以外は認めない。

問三 前の二説は帝王となるための論で、  
a 3点

b 2点

孝公にとつて実行できないものであり、

c 3点

後の一説は覇者になるための論で、

d 2点

孝公の欲することになつていた から。 (10点)

e

a 「前の二は帝王の論(なればなり)」の要素(3点)

b 「精(≒帝王の論)は孝公の得ざる所」の要素(2点)

c 「後の一は覇者の論なればなり」の要素(3点)

d 「粗(≒覇者の論)は孝公の行はんと欲する所なり」の要素(2点)



問四

I そなりといへどもうけらる。(4点)

※「そなり」の「なり」がないものは減点2点。

※「〜といへども」の読み方がまちがっているもの×。

※「いえども」になっっているものは減点2点。

※「うけらる」の読み方(受身)がまちがっているもの×。

II たとえ粗雑なものであっても受け入れられる。(4点)

※「受けらる」は「受け入容」れられる」

問五

a 3点

為<sub>下</sub> 不 善 於 欲<sub>レ</sub> 得<sub>二</sub> 不 善<sub>一</sub> 之 主、

b 3点

雖<sub>二</sub> 不 善<sub>一</sub> 不<sub>レ</sub> 見<sub>レ</sub> 憎。

(6点)

※送り仮名をつけているものは×。

問六 ニ・へ (各6点)